

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890200363		
法人名	株式会社湘南みどり園		
事業所名	グループホーム花樹ひたち	ユニット名	(ハッピーAユニット)
所在地	茨城県日立市日高町2-7-10		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 11 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=0890200363-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JiyosyoCd=0890200363-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年10月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設やスタッフの都合に合わせるのではなく、利用者の思いに寄り添い、一人一人のペースに合わせ、『ゆったり心』で、心のもった介護をすることを目指している。スタッフ一人一人が、認知症の理解とケアの仕方を深く学び、実践していけるようレベルアップを図っている。利用者の出来る事に目を向け、その力を発揮してもらう事で、個人の自立を支援していく。日々の日常の中で、より刺激となり楽しみとなるようなイベントを企画し利用者を楽しんで頂いている。今年秋に「東京ディズニーランド」へ家族付き添いのもとバスで外出予定。食事は三食とも全部手作りで提供し、満足して頂けるような食生活を送って頂いている。家族の方々にも安心出来るよう、電話やラインなどで生活状況を説明し連携を図っている。

事業所は日立紅寒桜で有名な小木津駅に近接し、工場や金融機関に隣接した町中に立地している。経営母体の関連施設との連携で園芸療法を実践している事業所である。職員は明るく、コミュニケーションが良く取れ、利用者が笑顔でゆっくり過ごせるような支援に努めている。手作りの食事は美味しいと好評を得ている。タブレット端末を利用したり、移動式浴槽を採用するなど、職員の事務軽減や腰痛対策にも配慮した事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・各ユニットに掲示し、日々念頭に置き実施につなげている。	朝礼時に確認するほか。玄関や事務室、各ユニットに掲示し常に意識してケアに取り組んでいる。利用者それぞれのペースに合わせた支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流や地元の夏祭り等に参加している。	書道のボランティアを継続して受け入れている。相談窓口を設けていたり、近所の方がふらりと訪問したりと、地域住民と良い関係が作られている。時には事業所の庭先の珍しい植木の挿し木のやり取りをするなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで認知症の方の支援方法に関する実例報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策の為書面で報告して意見などを頂きサービス向上に活かしている。	家族等の代表や利用者、民生委員等が参加して定期的開催されている。委員からコロナ以外にも、食中毒などの感染症予防、安全管理に注意するようにとの意見をもらい取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議資料文書を送付し、実情サービスの取り組みを積極的に伝え意見をもらい協力関係を築いている。	行政主催の勉強会は積極的に参加している。行政からの知らせにより、グループホームの全国大会などにも参加した。毎月、市の介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際、危険が伴う為4点柵拘束をしている方はいるが、3ヶ月に1回拘束委員会を開く事はもちろん毎日の申し送りで日々必要か検討している。	身体拘束排除のための指針を作成して定期的に委員会を開催している。スピーチロックなどを見かけたときには職員同士でその都度注意喚起あっている。マニュアルを作成し、年1回内部研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を実施し、日々のケアにおいても職員同士声掛け連携を図り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングの際に勉強会を実施し成年後見制度に関しては実際、利用している方が居るので把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際に家族に来ていただき契約時の書類を読み上げ疑問点がないか十分聞き納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見要望がある場合、玄関に投書箱がある事を説明、又面会時等にお話を聞き反映させている。	日常生活の様子を伝えたり写真を撮りためておいて渡すなど、家族等との関わる時間を増やし、意見や要望をもらいやすいきっかけづくりとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフは管理者に、管理者は代表者に意見を聞く場を設けており、十分反映されるいる。	日頃から職員が管理者へ直接意見をしてくることが多く、管理者も即座に対応していて、良い関係が保たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見箱を設けており、日々連絡を取り合い連携に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、外部のWEB研修を行っており、その研修を内部研修でも使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加や情報交流等実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に聞く事はもちろん、その方に関わってきた家族、担当ケアマネ等に聞き、その人を出来る限り知れる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時家族が話しやすい環境を作り、耳を傾ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に仮入所3日間を設け花樹での生活を体験して頂き見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として協力しながら日々過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって家族はとても大切な存在であり、いつでも会える環境作りをし協力しながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会では家族を通し面会可能にしており途切れない様に務めている。	フェイスシートを作成している。アセスメントシートは年1回見直しを行っている。家族等と外出をしたり、知り合いとの手紙のやり取りなど、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々利用者がより良く生活できる様席替えや部屋替えをしている。また、共同で作業を通し関係を深められる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所が多く退所後は、実際関わる事はあまりないが、連絡を受けた際は拒むことなく協力する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り意向に添える様、臨機応変に対応している。	日々の会話を通じて、利用者から思いや意向を聴き取り、連絡帳に記載し特に必要事項には、蛍光ペンでマークするなどして、情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前での本人、家族、ケアマネ等へのアセスメントをきちんとし、その人を知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の報連相をきちんとし、その日その日での状態を把握対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを第一に考え、家族、スタッフ、主治医等から意見を頂き作成している。	家族等の意向を確認し、医療関係者からの意見を取り入れて職員全員で計画を作成している。2か月ごとにモニタリングを行い基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りをきちんとし、iPadでのレポートに残し日々の変化に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カタログでの洋服購入、携帯電話使用等ニーズに対応し、本人が暮らしやすい様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	あん摩マッサージや近隣での催し物参加、ボランティア等の多岐にわたる踊り・演奏会見学などで楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が2/3の方が利用されている、他の方は、家族付き添いのご意向により病院受診をされている。	契約時にこれまでのかかりつけ医への継続受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による訪問診療がある。訪問診療の際は、医師から受診報告書が送られてくる。特別変化があった時は、医師から家族等に直接電話連絡が入ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療では、気付きをきちんと伝えられるように専用紙に記入し外部での病院を利用されている方にも変化時に家族に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室のMSWの方に連絡をし入院時・入院中・退院時に経過を聞き情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各自終末のあり方を書面で書いていただいております。早い段階で会議を開き花樹の方針を伝えている。	重度化や看取りに関する同意書がある。状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。重度化した場合や看取りに関する研修会を定期的開催するまでには至っていない。	重度化した場合・看取りに対する研修会を定期的開催することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを各ユニットに置いてある。外部研修に参加しスタッフで共有し活かせる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練・防災訓練を実施しており、水害訓練では、実際に車に乗って頂き体験した。	普段の日、レクリエーションの際に不意に訓練を行ったりもしている。利用者が不穏にならないよう注意を払いつつ、職員の繰り返しの訓練としても役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い失礼のないような声掛け対応に努めている。	利用者を人生の先輩と位置付け、尊厳に配慮した言葉遣いに努めている。人権尊重や守秘義務に関する定期的な研修会を実施するまでには至っていない。	人権尊重や守秘義務に関する定期的な研修会の実施を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身の意見をきちんと発言できる方は、意向に沿うのはもちろん、認知症や失語で思いの表出が難しい方には、表情や態度で読み取れるよう働きかけクローズドクエスチョンで対応する等努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは決まっているが、レクレーション、入浴等無理強いはしない様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はご本人に選んで頂いており、季節に合ったものを家族に協力してもらい入れ替えながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭で野菜を作ったりしており収穫や採れたての野菜を食したり下ごしらえや片付けをして下さっている。	利用者の好みを踏まえて旬の食材を取り入れながら職員が調理している。季節ごとの行事食やお楽しみメニュー、庭でのお茶会や外出時の手作り弁当など食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人ご飯の量を調整し、栄養剤の使用や水分を余り摂らない方は、個人表を作成し一日の摂取量を記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医に口腔状態を診ていただき、きちんと歯磨きができない方には、仕上げ磨きを毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツの方は、2人のみではあるが、全員トイレでの排泄を行っている。	それぞれの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を支援している。立位保持が難しい利用者も二人介助を行うことでトイレでの排泄が維持できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヤクルト提供や便秘の方には、牛乳を飲んで頂いている。ラジオ体操、リハビリ体操、歩行訓練を全員実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スケジュールは決まっているが、無理強いはしていない。出来る限り浴槽に入れるように支援している。	基本は週2～3回としているが利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。移動式の浴槽で、配置が左右に移動でき、片麻痺の利用者の入浴の際に役立っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	スケジュールは決まっているが、その日の体調や本人の希望を尊重して出来る限り、日中活動していただき夜間安眠がとれる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフがいつでも利用者の服薬状況を閲覧できる様ファイルにまとめており、薬変更の際には慎重に様子観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日二回のレクリエーションや年間行事の他、ボランティアによる歌や楽器演奏、またテイクアウト等実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類になり少しづつ家族との時間が過ごせる様外出支援している。	敷地内には花壇や畑が複数設けられており、花の手入れや野菜の収穫や管理を通じて、季節の移り変わりを身近に感じられる配慮をしている。季節に応じて、きららの里や花見、日立駅前の花見やイルミネーションの見物に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使われる事はほとんどない状況。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方や手紙のやり取りをしている方はいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画を季節ごとに張り替え、生花を飾り温度や湿度を管理し調整している。また庭に咲いている花をいつでも見れるようカーテンを開け過ぎていただいている。	白を基調とした、明るく清潔な空間が広がっている。玄関先には、季節ごとに替えて絵画が飾られ、四季折々の生け花も彩を添えている。リビングホールは温度、湿度管理がされて快適に過ごせるようになっている。ソファやマッサージチェアが置かれていて、利用者は自由に使用でき、思い思いにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々その時に応じて席を替え調整している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	きちんと理解し管理できる方は、馴染みの物を置き居心地の良い様に過ごして頂いている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。利用者、家族等に使い慣れたもの、馴染みの物を持参し、自宅同様過ごせるよう説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況、思いを把握できる事はできる限りして頂き臨機応変に対応している。		

(別紙4(2))

## 目標達成計画

事業所名 \_\_\_\_\_  
作成日 令和 5 年 11 月 28日 \_\_\_\_\_

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や看取りに関する同意書はあり、状況の変化や段階的合意も行っているが、スタッフへの研修会が、定期的には開催出来てない。	月一回の全体会議の中に研修会を取り入れて行っていく。	全体会議の中で、毎回30分位を重度化や看取りについての研修会を取り入れて実施する。	3ヶ月
2	36	守秘義務(プライバシー)に関する研修会が定期的には開催出来てない。	全体会議の中に研修会を取り入れて行っていく。	全体会議の中に研修会を取り入れて定期的には実施する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。